

# おれんじニュース

No260

2011年11月号



9月28日 子福地藏様と地藏岳のオベリスクそしてオレンジハイキング隊

★集会・委員会のお知らせ★		★4月から会合の曜日は水曜日です★		
	11月	12月	時間	場所
運営委員会	9日(水)	7日(水)	19:30~22:00	西諫早公民館
ひまわり集会	4日(金)	9日(金)	山行時に行います	
全体集会	23日(水)	21日(水)	19:00~22:00	

..... 山行の一步は集会参加から .....



あ〜あ♪多良岳は〜♪今日も〜雨だ〜た。♪ 9/18



鬼の岩屋でドンジャラホイ!!!



西の越から西岳へ。空は雨でもこの笑顔



ドンドコ沢をのぼります。  
山あり滝あり、ドンドコドン



昇仙峡にてギボシ?りっぱ!



フジアザミ 青木鉢泉の庭で



南精進ノ滝にて全員集合



←ウラシマツツジ



→タカネビランジ



## 11月山行計画

部	ひまわり山行部	技術研修部	山行部
月・日	4日(金)	6日(日)	13日(日)
山名(行事)	烏帽子岳(413m) 鳴鼓岳(392m)	鶴見岳・鞍が戸・内山・伽藍岳・塚原温泉・安心院	九重・三俣山 長者原登山口より硫黄道路経由、すがもり越え
地 図	長崎西北部	別府西部	湯坪・大船山
集合時間	諫早駅 8:20 発 JR 西諫早駅 8:24 発 JR	諫早駅前 6:00 西諫早駅 6:10	諫早駅前 6:00 西諫早駅 6:10
難 易 度	初心者	中級健脚・ ゆっくりコース有り	やや健脚
帰着時間	17:00	20:00	20:00
歩行時間	3.5h	5.0h	5.0h
交通手段	JR&バス	マイクロバス	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	無し	有り	有り
参加費	公共交通費	5000円	5000円
申込期限		定員になり次第	定員になり次第
集 約	中村	佐原	田中
備 考	ダンギクを愛でながら九州自然歩道をお楽しみください。	すばらしい紅葉を目にすることでしょう。	ドウダンツツジやコミネカエデの紅葉が見頃です
感想文提出	11/14	11/16	11/23

### 技術研修部より

11月26日(土) セルフレスキュー (JR西諫早駅 9:30 集合)

12月24日(土) セルフレスキュー (JR西諫早駅 9:30 集合)



### 忘年会のお知らせ

- 日時 12月9日(金)6時半～
- 場所 太白楼(23-1098)水月楼の隣
- 会費 3000円(男女とも) 申込み中村まで



## 12月山行計画

部	山行部	ひまわり山行部	技術研修部		
月・日	12月4日(日)	9日(金)	10日(土)	17日(土)	23日(金)
山名(行事)	平尾台 (大平山 587m・ 貫山 711m)	小浜～唐比	元越山(582m)	鬼ノ鼻山(434.6m) 聖岳(416m) 多久聖廟	岸岳(320m) (鬼子岳)
地 図	苅田		佐伯・畑野浦	多久・武雄・牛津	徳須恵
集合時間	諫早駅前 7:00 西諫早駅 7:10	諫早駅ターミナル 発 8:50	諫早駅前 6:00 西諫早駅 6:10	西諫早駅 8:30	西諫早駅 8:30
難 易 度	初心者	初心者	初心者	初心者	初心者
帰着時間	18:00 頃	17:00	18:00 頃	17:00	17:00
歩行時間	4.0h	4.5h	3.0h	4.0h	4.0h
交通手段	マイクロバス	バス	マイクロバス	マイカー	マイカー
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	有り	唐比温泉	有り	有り	有り
参加費	5000 円	交通費のみ	5000 円	2000 円	2000 円
申込期限	定員になり次第	随時	定員になり次第	随時	随時
集 約	田中	中村	佐原	佐原	佐原
備 考	カルスト台地の スキがみごと です。	小浜までバスで 行き唐比まで歩 きます。	日本屈指の展望 峰です。国木田 独歩が愛した山	山頂には鬼の頭 の展望台がある らしい。	姫落としの岩 や見どころ満 載
感想文提出	12/14	12/19	12/20	12/27	1/5

### 第3回 県連写真展のお知らせ

趣 旨：私達の山の記憶

開催日時：2012年3月18日(日)～25日(日) 10:00～19:00

会 場：石丸文行堂 6F イベントホール

オレンジハイキングクラブでは、15作展示する予定で  
現在作品を募集しています。芸術性など特に問いません  
ので、気楽に応募願います。連絡は鎗水まで。



# 9月/10月の山行報告



9月18日(日)

## 奥多良散策

<参加者> 川原、中須賀、兵庫、田中(静)、中村、林田、松園、山下、下釜、岩永、川内、山本、中野、平山(外) 計(14名)

<行程> 西諫早駅 8:40 発—金泉寺再建道路入口着 9:40—同所出発 10:20—鬼の岩屋の下路 11:00 (訓練組と別れる)—六体地藏 11:20—金泉寺小屋 12:00—(昼食)—訓練組到着 12:20—金泉寺小屋出発 13:10—西岳 13:37—役の行者 14:00—鬼の門 14:30—駐車場着 15:00 解散

<感想>

本日は天候を気にしながら(2個の台風の動きが遅く)4台の車で出発する。

金泉寺再建道入口に着いた頃少し雨がパラリ、それにめげずストレッチをして出発。

すぐの登りで息がきれる。昨夜のお湿りで、道が滑り易い。

途中には花が少なく、つりふね草、みずひき草の黄色や赤色が目に付く。大岩が多く、柔らかいのか落書きや風の彫り跡が見られた。直径1m以上は有るであろうと思われる大木が倒れている。このコースは2度目であるが、私は用心のため、南アルプスの鳳凰三山行きの訓練組とは分かれ、ゆっくり組を選んだ。

帰りは山茶花高原経由(レインボーロード)し、コスモスの花道を走る。

途中、主婦に戻り、「轟街道ふれあい市」にて夕餉の食材を仕入れる。

久しぶりの多良岳であった。やはり多良岳は良い山だと再認識した。

(中村 記)

9月25日(日)~29日(木)

## 南アルプス鳳凰三山

(参加者) (PL)川原慶紀、(SL)中須賀孝正、兵庫芳隆、林田ムツ子、川内美智子、下釜ミツ子、山本久美子、山下ちず子、松園朱實、中野美津子、平山隆仁郎(外)、村川アヤ子(外)

9月25日、26日

(行程) 西諫早駅出発(25日)18:00~甲府駅着(26日)8:50~武田神社 9:20~昇仙峡 10:10~青木鉱泉 15:00

(感想) 午後6時予定通り西諫早駅を出発。バスでの山行は疲れるのではないかという不安はあったが、後部座席をとりはずし、座敷(?)にしてあったので交代で横になることができた。横になると車輪の音とゆれで少々うるささはあるものの、知らぬ間に眠っていたようで

ある。

6時30分駒ヶ岳パーキングに到着。それぞれに朝食をとり、再びバスに乗り込み甲府へ向かう。8時50分甲府駅前到着。武田信玄の像を見て信玄神社へ。こじんまりしてはいるが信玄の厳しさを表すようにきっちりと掃除が行き届いて気持ちが良い。



10時10分昇仙峡へ到着。溪谷沿いを天狗岩、めまい岩、覚円峰などの巨岩に目を見張り、カメラにおさめながらゆっくりと散策する。明日からの大変さは予想もせずに観光気分バッチリ。ロープウェイ発着所付近には、驚くほど土産品店が並んでいる。ここは水晶の産出地であったようで水晶、アメジストを使ったアクセサリー、置物がどの店

にも並んでいる。クリスタルサウンドというこの地には似合わない名前の建物に入るのを敬遠していたが、しつこく誘われるので全員入ってみて驚いた。そこには見事な水晶のアクセサリー、これでもかと言わんばかりの大きな置物、そしてイケメンのお兄ちゃんの声高なガイドぶりにさすがのオレンジのメンバーも圧倒されながら見物した。しかし腹の虫は確実に時を知らせてくれるのでイケメンクンをふりきってレストランへ。名物の「ほうとう」に舌鼓をうち、鹿児島県出身のおかみさんの過大なるサービスに感謝しながら青木鉱泉へと向かう。今回は天気の手配はないと思っていたのに小雨模様。「どうか、晴れますように」と祈る思いでバスに乗った。途中、台風15号の影響で道路は大荒れ、ドライバーの井上さんのテクニックに頭が下がる。

15時青木鉱泉に到着。ゆっくりと温泉につかり明日への英気を養い、19時には就寝。15分後にはもう、男性(だれだろう?)のいびき。さすが山男。

## 9月27日

(行程) 青木鉱泉 7:10～南精進ノ滝 9:50～五色ノ滝 13:50～鳳凰小屋 15:00

(感想) 昨日の手配はうそのように晴れ。午前7時、鳳凰小屋へ向けて出発。昔、子供が授かりますようにとの願いを込めて、ドンドコと太鼓を打ち鳴らしながら登ったというドンドコ沢を通過する。昨年我が家の次男夫婦に長年の念願かなって授かった孫のことを考えながら、お地蔵様を背負っては行けないが、今回をお礼参りにしたいものだと普段の無信心は棚に上げながら歩く。常に沢に沿って歩く。そして時には沢を横切る。多分、7、8回は横切ったのではないだろうか。今考えると沢を中心にジグザグに登っていたようだ。出発から約3時間で南精進ノ滝に到着。落差が大きく水量が多いだけにその大きさに圧倒されながら、次へと進む。さすがに上り坂はきつい、行く先々に滝を見ながら一呼吸がおけるのは助かる。二番目、鳳凰ノ滝は翼を広げたような滝、三番目白糸ノ滝、四番



目の五色ノ滝には午後2時に到着。どれも大きく、台風の影響もあったのか大変な水量だった。どの滝にも名前の由来を思わせる特徴がある。そのなかでも五色の滝が一番大きかったように思う。たぶん光線の関係では五色に染まることのあるのではないかと勝手に想像する。午後3時15分、鳳凰小屋に無事到着。歩いている時は汗びっしょりだったが、さすが2380メートルあるだけにすぐに冷えてくる。到着したときには、たき火がしてあったのに、どうしたわけかすぐに消されてしまう。午後6時半には寝床に入る。下界では考えられないような早い時間だ。薄い毛布と布団だけでは寒いので、ザックに入っている物はなんでも着込み、タオルで頬かむりをして寝たが、寒くて眠れない。しかし上の段からは、すごいびきと爆発するようなおならが聞こえてくる。ますます眠れない。22時頃、トイレ(外にしかない)に一大決心をして出ると、満天の星。星座はわからないが、永いこと見たことのなかった空いっぱいの星にしばしみとれる。床の中に再び入りブルブル震えているうちに、眠っていたらしい。

### 9月28日

(行程) 鳳凰小屋 6:00～地蔵岳 7:30～観音岳 10:00～薬師岳 11:00～御座石 12:30～  
青木鉱泉発 17:00～西諫早駅着(29日)10:00

(感想) 昨日より天気がよさそう。だんだん明るくなるにつれて雲ひとつない晴れを確認。今日は三山を登って下山しなければならない。まず、地蔵岳へと向かう。坂も急だが足もとが砂地。距離的には長くはないが一步、一步を踏みしめていかななくてはいけないのでかなりの力が入る。約1時間で地蔵岳に到着。オベリスクを見たたん、その巨大さ、言葉では言い表せない芸術的な岩のつくりが、秋の青空に堂々と映えているのに感激の一言しかない。

甲斐駒ヶ岳、仙丈岳、北岳が堂々と目の前にそびえている。遠くには富士山が華麗な姿を見せている。みんなでいろいろな山々を指さしながら素晴らしい景色にただ感激。子宝を授かった人々のお礼の地蔵様が何体もいらっしゃる。私も感謝の気持ちをお参りした。次、観音岳へと登る。ここも砂地続きで登りにくい。一時間ほどで頂上(2840m)に到着。頂上からはオベリスクが真正面に見える。



スタイルブックから抜け出したような可愛い山ガールとボーイがひょうひょうと登って来て笑顔を振りまいて通り過ぎる。若いっていいな。なんとなく、自分の薄汚れた、疲れた顔を思い浮かべる。鏡がなくて幸い。でも、この素晴らしい景色は年に関係なく同じように目にすることができるのだ。真正面に北岳がデンと構え、甲斐駒ヶ岳が右にはずれている。八ガ岳、塩見岳、はるかかなたには北アルプスまで見える。そのほかの山々もぐるっと、とりまき青空に映え、仰ぎ見るのではなく、ほぼ同じ高さから見ることはなんとも壮観である。みんな天気の良いことに感謝しながら大感激の様子。最後の薬師岳に11時到着。壮観なアルプスの山々が青空にくっきりと見えることへの感激はつきない。昼食をとり下山開始。2780メートルからの下りである。岩あり、ゴロゴロとした大石あり。足もと

に全神経を集中させる。御座石までは全員で下ったが、二手に分かれることになった。私は前の班についていたが、だんだんと遅れる。林田さんがつきあってくれて二人きりになる。どうしたことか足が進まない。カクン、カクンとしてすぐに転んでしまう。「山に登ったら、どんなことをしても下らねば」と自分に言い聞かせるが、足が自分の足のようではなく、どうしようもない。時々休みをとるが足の回復はなく進めない。前の班からはドンドン離れてしまう。やっと後ろの班と合流することができてホットするが足の状態は変わらない。松園さんがアンザイレンで後ろから引っ張ってくださり、中須賀さんにザックを持ってもらっているうちに、先に下った人たちが迎えに来てくださった。皆さんに励まされながらやっとの思いでバスまでたどり着くことができた。みなさんのあたたかい励ましと心遣いに感謝しながらも、すっかり迷惑をかけてしまったことに申し訳なくてたまらない。私のために帰りの時間が遅れ、17時出発となり、翌29日10時西諫早駅に全員無事に到着。素晴らしい天気にも恵まれ、再び見ることができないであろうアルプスを堪能し、みなさんのやさしさにふれた素晴らしい山行でした。本当にお世話になりました。

(中野 記)

## 最後のアルプス山行 鳳凰三山は厳しかった

Kリーダーから、私に手頃な山として鳳凰三山縦走を9月末の山行に計画しますよと言われた。だが当初私は余り鳳凰三山には興味がありませんでした。

というのも南アルプスは、白峰三山(北岳、間の岳、農鳥岳)縦走を9年前にアルプス登山のデビュー戦として行い、以後北アルプスの燕岳～常念岳～蝶ヶ岳縦走や槍ヶ岳・奥穂高岳山行で、富士山を始めとする日本の高き山5座登頂を達成していたため、一応アルプスはTHE ENDとするつもりでいたからです。しかも最近では腰痛と坐骨神経痛に悩まされていることもあり、一抹の不安も持っていました。

だが、①夜叉神峠から緩やかに登ると言うことで、参加者が健脚者ばかりでもないということ。②紅葉がよい時期ですよとの言葉に、一度はアルプスの紅葉も観てみたいという思い。③ガイドブックやインターネットのブログで地蔵岳の偉容な尖塔岩塊(オベリスク)を見ると、これもじかに眺めてみたいという誘惑にかられる。④昨年奥穂高岳に登ったではないか、それに比し3000m以下の鳳凰三山なんとかなるだろう。と思い参加を決める。

時々早朝から御館山へザックを担いでトレーニングに行く。重さも軽くしているが階段のぼりは去年の半分位しかできない。高血圧で心肺機能も低下しているのだろう。整骨院にも通い、腰部の整体を受けながら脚力低下を自転車こぎで補う。毎日のスクワットを含め、現状でできる限りの手を打って不安ながら山行に臨んだ。

27日7時青木鉦泉からドンドコ沢に沿った急登を南精進ノ滝、鳳凰の滝、白糸の滝と順次滝を見物しながら鳳凰小屋を目指す。最初はWストックで調子よく登っていたが腰の痛みと疲労がだんだんと増してくる。足も重くなり遅れ出す。75kgの体重が恨めしい。昼弁当もほとんど喉を通らない。時間のロスを少なくするため、雨具と荷物の一部をKリーダーに持ってもらう。救助係が救助されることになった。オレンジに入って初めての屈辱。3時半

やっと鳳凰小屋到着。ホットする。

28日鳳凰小屋から青木鉱泉までは長丁場なので6時出発。オーバータイムにならぬよう今日はスタートから昨日同様Kリーダーに助勢してもらおう。昨夜の冷え込みで睡眠不足か体調は良くない。ザックと足に重りを付けたようだ。さらに欠伸の連発と睡魔が襲ってくる。地蔵岳砂場の下方で疲労は最高潮、石に腰掛け岩にもたれて暫し休憩。

息は苦しく臉は開かず、頭から全身血が引くようで生汗が出る。いつしか眠っている。

ここで死ぬのではないか、死んだり動けなくなったら仲間はどうなるのだろうか、ヘリコプターが出動するのだろうか、新聞テレビで報道されるのだろうか、妻には何も後のことを話していないが大丈夫だろうか、といったことが頭の中を駆けめぐる。

しんがりを務めるNサブリーダーの呼ぶ声で目を覚ます。救護のMさんが駆け戻り平坦部に移動して手当を受ける。腹部の締め付け過ぎによるものとザックをおろしズボンのバンド、ウエストポーチをはずし、腹式呼吸を行ってヤット人心地がつく。

スローペースながら地蔵岳、観音岳、薬師岳と三山を巡ることができ、最高の天気恵まれ、かって北岳より見た富士山よりも大きく見える富士山を眺め、白峰三山を始め千丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳の南アルプスの山々、さらに木曾駒ヶ岳、八ヶ岳などの大展望を心ゆくまで眺めることができたことは、やはり「来て良かった」の一語につきる。

薬師岳からの下りは、地球の引力に逆らうことなく歩けるから、足の疲れはあったが割と楽に進み3時45分林道出合に着いた。



人の助けを借りながらではあったが、後期高齢者(75歳以上)直前のアルプス山行で私のアルプス山行は南アルプスに始まり南アルプスで終わるということになった。

後期高齢者以降は、山頂近くまで車かロープウェイなどで行き、下り専門に歩く山行を探して行かなければならないかも知れない。チョット悲惨かな。

しかし今度の山行で、アルプスはやはりそんなに甘いものではなく、普段のトレーニングや体調管理の重要さを思い知らされた。また仲間のありがたさも痛感した。

Kリーダー、Nサブリーダー並びに救護のMさん大変お世話になりました。ありがとうございました。またメンバーの皆さんお疲れさまでした。なお、こもればから参加のHさんグループの強力な助っ人として大活躍していただきありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

(兵庫 記)

9月29日(木)

薬草観察ハイキング(県連主催) 岩屋山にて

(参加者) 県連各会から総員22名 オレンジから2名(中村かずえ、田中紘子)

(行程) 長崎市油木町、県立体育館 (9:00 集合、9:20 出発) ——カトリック城山教会墓地横(10:00)——頂上手前の休憩所にて早昼食 (11:30~12:40) ——小江原警察学校前にて解散 (13:30)

(感想) 体育館前の広場にて点呼とストレッチ、本日のリーダー塩田氏から講師の三浦先生の紹介。8ページもある「長崎の薬草」のプリントを頂戴する。薬草 185 種、毒草 26 種の名前と採取時期、利用部位、用途等が記され、楽しく勉強出来そう。

油木の九州自然歩道の細い路地を抜けて、坂道を登る。車が横付けできない民家が雑草に覆われて廃屋になっている。一括りに雑草というけれど、それぞれ名前があり、扱いによってはどれも薬草である。春の七草は主に食用にされ、秋の七草は薬用になる。また薬草は毒草に通じる。など含蓄のあるお話を聞きながら、プリントの草名に○印をつける。プリントに無い名も出てくる。昼食後の休憩時間に、先生の研究テーマである放射線と植物の関係についての講話をお聞きする。エーデルワイスの発芽時に放射線を当てて細胞の変化を観察したり、その成長を追った写真を見せていただく。せんぶりの苦味の抽出や、メイクインのえぐみの特定など、興味のある話でした。現在話題になっている東北地方の汚染土壤に、ひまわりや菜の花を植えても、汚染浄化にはあまり効果がないそうです。また、最近の健康食品の氾濫も良いことではない。くれぐれも摂取には注意するようにとのことでした。

雲行きが怪しくなり、小雨が降り出したので、頂上までは登らず (今日は登山が目的ではないので) 小江原方面にくんだり、警察学校前で解散、バスにて帰宅の途に着く。今日学んだ知識のほんの少しでいいから、頭の中に残るように願っています。(田中紘子 記)

## 10月9日(日)

### 火の山連山(303・6m)、陶ヶ岳(230m)

〈参加者〉川原(C L)、山下(S L)、中須賀、久保、林田、中村、田中(静)、森、川内 9名

〈行程〉諫早駅裏ロータリ 6:00~西諫早駅 6:15~長崎道~九州道~中国道~山陽道~小郡バイパス~名田島IC~県道194号~山口県セミナーパーク~第5駐車場 9:40→亀山登山口 10:05→亀山 10:50→火の山 11:55→陶ヶ岳 12:00—12:40(昼飯)→聾学校前バス停 14:00~湯田温泉「簡保の湯」~西諫早駅 19:50~各自宅近く前

〈感想〉

私は鳳凰三山でバテテしまいすっかり仲間の皆様に迷惑をかけてしまった。御館山で訓練していたのに体力の衰えに愕然とした。これからアルプスの山や高い山は無理だが、後2~3年は山をまだ楽しみたいと思ったので申し込みに勇気を要したが、とりあえずザックに重りを入れて御館山訓練をして今日を迎えた。

今回は山口県の山で低山ではあるが岩道と岩峰のアップダウンを繰り返す山と言うことだった。特に私は今回バテたら山をきっぱり諦めようと思っていたので緊張していた。ただ天気は良かったので天気の心配をしなくて良いのはラッキーだった。

予定より早く着いた第5駐車場でストレッチ体操をしたあと、これから登る大きいピーク

なら6個ある岩峰の火の山連山を見ながら、整備された公園を通りセミナーパーク本館裏手にある亀山登山口へ。急坂を登ると展望が開けてきて区画がきちとした収穫前の田園が美しい。アップダウンが続くので滑り落ちないように気を抜けないが、恐怖を感じるような所はなくスリルがあって面白かった。

地元郷土史家の間では峰名に混乱があり亀山（300m）は火の山であって亀山ではないと言う説もあるらしい。火の山連山の最高峰火の山頂は三等三角点で石鎚神社の石祠が2基あり展望も良かった。

陶ヶ岳は遠くから見た時は岩峰が横に張り出し相当に険しく見えたが急坂もなくあっけなく山頂に着いた。山口市街や田園風景など360度の展望が素晴らしかった。

下山後は湯田温泉の「簡保の湯」で汗を流し一路諫早へ。長い道中は美しい夕日も満喫できた。

皆さんお疲れ様でした。川原さん魅力ある山行を計画して下さって有難うございました。私はバテないでついていけたので、ちょっぴり自信を取り戻した山行でした。今後も御館山訓練をいろいろ工夫して体力をつけるようにして、なるだけ長く山に登れるようにしたいと思います。  
(川内 美智子 記)



火の山山頂の祠 中須賀カメラマン



やっと登れた亀山の頂上 300m



火の山にちょうどお昼に着きました。



陶ヶ岳はだましピークをいくつも越えて。



セミナーパークから見た火の山連山



どこにある岩で  
しょう？  
→はクジラ岩  
←はカエル岩  
です。



観音岳頂上すこし手前からの富士遠望

おれんじニュースNo260	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2011.10.24
財政担当	
郵便振替講座	
ホームページ	<a href="http://orangehikingclub.web.fc2.com/">http://orangehikingclub.web.fc2.com/</a>



ツルニンジン 9/18 奥多良にて